



平成25年3月期 決算報告

クボテック株式会社

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月期)	前期 (平成24年3月期)	来期予想 (平成26年3月期)
売上高	1,995	3,328	2,900
営業利益	△ 638 (△32.0%)	△ 209 (△6.3%)	50 (1.7%)
経常利益	△ 635 (△31.8%)	△ 235 (△7.1%)	30 (1.0%)
当期純利益	△ 691 (△34.6%)	△ 262 (△7.9%)	20 (0.7%)

◎売上高は、FPDメーカーの設備投資減少の影響を受けて、画像処理外観検査装置の売上が大幅に減少し、損失は前期をさらに上回る大幅な減益となりました。

◎一方で海外子会社2社は堅調に推移し、Kubotek USAは売上が拡大し損益が改善しました。

◎来期も、画像処理外観検査装置は依然厳しい受注状況が続くものと予想されます。
有機ELや機能性フィルムなど液晶以外の検査機システムの開発、販売を強化し、3Dソリューションシステムやメディアネット機器の拡販に努め、これまで実施した固定費の削減効果から来期は利益の確保に努める所存です。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月期)		前期 (平成24年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,317	30.5	2,199	38.6
売上債権	728	16.8	999	17.5
たな卸資産	471	10.9	578	10.1
その他	27	0.6	△ 3	0.0
固定資産	1,782	41.2	1,924	33.8
資産計	4,327	100.0	5,697	100.0
流動負債	2,685	62.1	2,749	48.3
固定負債	602	13.9	1,232	21.6
負債計	3,288	76.0	3,982	69.9
資本金	1,951	45.1	1,951	34.3
利益剰余金	△ 905	△ 20.9	△ 214	△ 3.8
その他	△ 7	△ 0.2	△ 21	△ 0.4
純資産計	1,038	24.0	1,715	30.1
負債及び純資産計	4,327	100.0	5,697	100.0

◎総資産は、前期末に比べ現預金、売上債権などで約14億円減少し、43億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ借入金の返済などで約7億円減少し、32億円となりました。

◎純資産は、純損失の計上から約7億円減少し、10億円となりました。

報告セグメント別売上高

連結

(単位:百万円)

	当期(平成25年3月期)		前期(平成24年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日本	1,252	62.7	2,810	84.4
米国	350	17.6	248	7.5
韓国	392	19.7	269	8.1
計	1,995	100.0	3,328	100.0
うち海外	1,323	66.3	2,280	68.5

◎日本では、大手FPDメーカーの設備投資が低調で、主力製品である画像処理外観検査装置が、前期に比べ大幅な減収となりました。

ハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムは、前期並みの売上となりました。

◎米国では、積極的な販売活動でCAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が大幅に増加し、これまで実施した固定費の削減効果もあり、収益性が改善しました。

◎韓国では、大手FPDメーカー向けに画像処理外観検査装置の部品販売、既存設備の改造工事などで、売上は伸張しました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月期)	前期 (平成24年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 120	△ 511
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 123	△ 140
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 662	493
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	24	△ 3
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 881	△ 163
VI.現金及び現金同等物の期首残高	2,106	2,269
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,224	2,106

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の回収や在庫圧縮に努めましたが、多額の損失計上から、1億2千万円の支出となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/GAMソフト「KeyCreator」の開発投資などにより、1億2千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済により6億6千万円の支出となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月期)	前期 (平成24年3月期)
受注高	1,557	99
受注残高	792	343

- ◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、液晶テレビの不振などからFPDメーカーや硝子素材メーカーの設備投資が急減速し、受注、受注残高は低い水準のまま推移しました。
- ◎来期は、有機EL、機能性フィルム、タッチパネル向けなど従来の液晶以外の検査装置の開発、市場開拓にも注力し、受注を確保する方針であります。

まとめ

- ◎ フラットパネルディスプレイ(FPD)分野は、スマートフォン、タブレット端末など中小型パネルへの投資は増加の動きが見られるものの、大型液晶パネルの需要が低迷し、大手FPDメーカーの設備投資は依然低調です。当社グループは、こうした受注環境の悪化から主力製品である画像処理外観検査装置の販売が、前期に比べ半減し大幅な減収減益となりました。
- ◎ 当社グループは、このような状況のもと、新規事業、新製品の開発をはじめ、固定費削減など事業構造の改革に取り組んでおります。
具体的には、画像処理外観検査装置において有機EL、機能性フィルムなど従来の液晶以外の検査機システムの開発、販売を強化し新規顧客の開拓を進めると共に、成長が見込まれる中国市場に注力いたします。
3Dソリューションシステムにおいては、海外で販売が増加していますが、さらに国内での販売を強化しグローバルな収益拡大を図ってまいります。メディアネット機器は、市場ニーズの高い放送局向けなどハイビジョン映像伝送装置の販売拡大を目指します。また製造に関しては海外生産を進めるなどコストを削減し、設備投資の抑制と人件費などの固定費削減効果から、損益分岐点を引き下げ、今後想定する売上高でも利益を確保する損益構造への改善に取り組んでまいります。
- ◎ さらに新規事業として今後需要の拡大が見込まれるエネルギー分野の研究開発を行なっております。再生可能エネルギーの大量導入に伴い、安全、低コストで大容量の蓄電媒体が求められることから、次世代フライホイール蓄電システムの開発を、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成金交付も受け同システムの早期事業化を推進してまいります。